

決算審査特別委員会

委員長 荒木千恵子

平成28年度南相馬市一般会計歳入歳出決算認定について

質疑 重点方針ごとの事業の執行状況と今後の課題は。

答弁 復興事業は54%、通常事業は26%を執行。今後は、避難指示区域再生、環境回復に重点をおく。

質疑 大町交流センターのバイオマスボイラー、泉地区の農業ハウス事業の今後の方向性は。

答弁 計画通りに活用されていない状況であり、有効活用策を検討していきたい。

質疑 28年度には不適切な事務処理等があったが、どう改善するのか。

答弁 不祥事が起きたことは深く反省している。市民の信頼を得られるよう「支払遅延の防止」を徹底していく。

質疑 企業立地補助金の返還金5千万円について、

補助金申請の取扱いは適切だったのか。

答弁 平成25年12月に申請があり、26年1月に助成金指定事業者と決定。同年5月補助金交付申請を受けて交付決定、助成金支払。

28年11月14日助成金の交付取り下げ申請があり、28年11月28日返還金5千万円の入金あり。今回の補助金返還については、極めて深刻な事態と考えており、助成金交付に際しては、事業者の適格性等を慎重に判断し、適切な事務処理に努めたい。

質疑 ふるさと応援寄附金を受けた事業者のホームページの事業計画が訂正されないままなのは、問題ではないか。

答弁 一部の補助事業者の内容と異なる事業が紹介されていた。寄附される皆様に不信感を持たれないよう、指導徹底を図っていきたい。

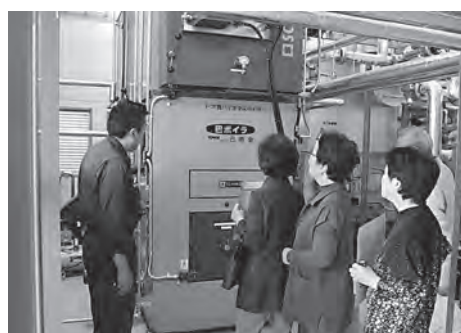
質疑 除染土壌等仮置場からの搬出の進捗状況と今後の見通しは。

答弁 中間貯蔵施設への搬送は、27年度は1千袋、28年度は5千151袋、29年度は1万9千500袋搬出。学校関連の別枠569袋については、環境省と協議中である。

討論 「企業立地補助金」「指定管理者」の不祥事や「大町交流センター」「農業施設」が十分に利活用されていない点を教訓として今後の行政執行に活かされることを求め、意見を付して認定すべきである。

う、指導徹底を図っていきたい。

採択の結果、認定すべきであると決した。



停止中の大町交流センターバイオマスボイラー

平成28年度国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について

質疑 23年度以降、医療費が4割伸びている要因として30km圏内の医療費が大きく占めているが、減免対象外の被保険者の税率が高くなっていないのか。

答弁 30km圏内の医療費は国の支援を受けており、併せて国保税への按分率を据え置いているので、30km圏外等の被保険者の税率は増額にはなっていない。

質疑 30年度から国保運営が広域化するが、国保税の算定をどうするのか。

答弁 30年度からは、県から示された納付額について市が按分率を決定し、市民が一体となるような税のあり方を検討していきたい。

質疑 28年6月議会で、税率を据え置いて健康推進事業に充てていくとしたが、保健事業の不用額1千万円が出た理由は。

答弁 28年度は出来なかったが、29年度より健診の結果説明会や血圧計、体重計などの設置を実施して

いる。

採択の結果、認定すべきであると決した。

平成28年度南相馬市病院事業会計決算認定について

質疑 喫緊の課題は、看護師、医師の確保など医療体制の整備とともに、働き甲斐のある仕事をするための改善、改革が大事であると考えます。

また、小高病院と総合病院の連携についての考えは。

答弁 喫緊の課題として人工透析、泌尿器科の年度内の開始に向け、医師の確保に努めている。看護師数は震災前に回復。働きやすく生き甲斐を持つて働ける環境づくりのため、院内保育所を建設。教育を重視し接遇の向上とともに薬剤師、臨床検査技師等の確保に努めている。

小高病院と総合病院の連携については、小高病院を無床化し、総合病院の機能の一部として連携体制を強化していく考えである。

採択の結果、認定すべきであると決した。

採択の結果、認定すべきであると決した。

南相馬市再生に全力



議長
細田 廣

平成30年の輝かしい新春をお迎えのことと存じます。皆様には平素より市議会に対し、ご支援を頂いておりますことに、心より御礼申し上げます。

今年本市において、天皇后両陛下にご臨席を賜り、第69回全国植樹祭が開催されます。市議会も心を込めてご歓迎申し上げますと考えております。さて、震災と原発事故による被災から、間もなく7年が経過しますが、全国からの激励、ご支援に感謝を申し上げますとともに、復旧復興に取り組む姿を、機会があるたびに発信し続けて参りたいと考えております。

昨年10月にも、全国市議会議長会山田会長（札幌市議会議長）をはじめ、役員の方々が来市され、東日本大震災からの復興状況を視察いただきました。視察後に参加者との意見交換会が行われ、復興に向けた我が市の課題についてご説明いたしご理解をいただきました。

市議会としても、市内三区の一体化に対する支援、常磐自動車道の4車線化、小高スマートインターの設置、県道12号原町川俣線及び34号相馬浪江線の整備促進、除染土壌の早期搬出等々、山積する課題解決のため議会活動に取り組んでまいります。

又、執行部とは常に連携を深め、皆様の声を届け付託に応えてまいりたいと考えております。

更に、議会一丸となり南相馬市の再生に全力で邁進してまいりたいと考えておりますので、変わらぬご支援をお願い申し上げます。

結びに、皆様のご健勝ご多幸をご祈念申し上げます、新年のご挨拶いたします。

新生 南相馬市をめざして



副議長
志賀 稔 宗

皆様には、平成30年の新春をお健やかに迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年は議会に対しまして暖かいご理解とご指導を頂き誠にありがとうございました。

振り返ってみますと、昨年は小高の小・中学校等が再開し産業技術校も開校するなど、本市としてあたりまえの姿に大きく一歩近づいた年でした。

今年商業施設、拠点集会所施設も予定されますことから、更に生活不便の解消が進むものと期待しております。

6月10日には、天皇后両陛下ご臨席のもと第69回全国植樹祭が予定されています。是非とも大成功させて本市復興にはずみをつけてまいりたいと思います。

また、鹿島区に設置が進められている風力発電施設等も稼働を始めます。原町区のロボットテストフィールドも順次開始が予定されますから希望が膨らんでまいります。

議会といたしましては、復興創生の3年目を迎えることから折り返しの年として国県事業の確実な実施とイノベーション事業をいかに効果的に本市の復興加速、市民生活の再生向上に結びつけられるかが、重要な点と考えています。そのためにも議員一人ひとりのモチベーションを生かした議員力の向上に更に力を尽くしてまいります。今年も全議員がフットワーク軽く市井に飛び出し、東奔西走存分に活躍しきつて結果を出してまいります。

若者の定住促進、医療・介護・福祉・教育人材の不足等、喫緊の課題に果敢に挑戦してまいりたいと思っております。

本年も変わらぬご指導くださいますようお願いいたします。

結びに本年が市民皆様にとりまして、充実した最良の年となりますよう、ご祈念申し上げます。